

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970300329		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド冠山・城跡園		
所在地	奈良県大和郡山市南郡山町648-6		
自己評価作成日	平成22年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成22年3月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山城に近く散歩コースにも恵まれ、また閑静な住宅街にありゆったりとした雰囲気です。生活していただける。スーパー等も近く日常生活の継続が行ないやすい。医療モールにも便利な位置にあり安心が持てる。建物の周りは専用の庭や畑が有り、園芸を楽しんだり、季節を感じて過ごしていただける。職員構成が性別・年齢層のバランスがよく、ご入居者に対応しやすい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地の一角にあり、駐車場がとても広く、家族が車で訪問しやすい。建物はバリアフリーで、ゆったりとしている。周りには花壇や畑があり、玄関には鍵がかけられていないので、利用者が自由に出入りすることができる。基本目標を「プロのいる家庭」として、レベルの高い援助がさりげなく行われている。2日に1回は入れるお風呂、昼夜オムツを使わない排泄援助、みんなで考えつくる食事など、きめ細やかな配慮がとても自然な形で援助が行われている。医療体制も充実しており、利用者や家族の安心につながっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通りで、玄関にも掲示している。 1、自分らしい安心した生活をお手伝いします 2、入居者様の尊厳を守ります 3、地域との連携に努めます	フレンド全体として、地域密着型サービスを踏まえた理念が掲げられている。さらに、その理念に基づいてユニットごとに、より具体的な介護目標が職員の話し合いによってつくられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーンキャンペーンに自治会の方と参加している。 地域の敬老会との座談会を行っている。	周りの住宅から独立した形で自治会がつくられているが、クリーンキャンペーンを一緒に行ったり、老人会との交流もある。また、中学校の体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の挨拶は欠かさずに行っている。 毎朝の隣近所の道路掃除等を入居者とともに率先して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会・地域包括支援センター・郡山市・ご家族・職員の参加により、ホームに対する理解や意見交換を行っている	2ヶ月に1回、運営推進会議が行われている。 大和郡山市や地域包括支援センター、家族などが参加し、意見を出し合って、サービスの向上に努めている。記録は回覧し、情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中学生の体験学習の受け入れをしている。 今年度は新型インフルエンザの影響で延期になっている。	法人の郡山営業所が近くにあり、そこが窓口となって市との連携をはかっている。また、地域包括支援センター主催の介護予防教室への協力体制をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とはを正しく理解するために、管理者は内部・外部の研修に積極的に学び、その内容を職員に説明、教育している。	門はロックされているが、玄関には鍵はかけられておらず、庭に自由に出ることができる。 職員は、外部研修及び内部研修によって、言葉掛けも含め何が拘束になるかを学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待の内容を正しく理解するために、管理者は外部の研修等に積極的に参加し、説明し教育するよう努めている。 事業所内では虐待行為はした事が無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修を通じて学び、その内容を職員に説明・教育している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用契約書等を文書で示し、理解していただいているか疑問点の有無の確認しながら説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は利用者との日ごろの対応や会話からは当然だが、外部への意見の反映は主として家族である為、積極的に声かけを行い苦情や不満を汲み取るよう努めている。また職員会議で議題にして解決策について話し合っている。	家族との信頼関係を築き、面会時やカンファレンスの時に要望等を聴くようにしている。また、面会時に来られない人には電話で連絡をとって、意向も聴くようにしている。運営規程や重要事項説明書に、苦情受付窓口が記載されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の日ごろの様子、勤務の様子や言葉からその者の思いや考えを汲み取り業務やケアに反映させている	管理者の人柄もあって、日常の活動の中で職員から意見や提案がなされている。また、それがケア会議で取り上げられ、みんなで話し合われることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と幹部従業員等が参加する会議を月に一回設けており、現場の状況を細かく連絡・報告・説明を行っており、不具合の発生には早急な対応を図れるように対処している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中段階研修、サブリーダー研修、リーダー研修を順次行っている。また、認知症介護実践研修、管理者研修、リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム運営協議会を立ち上げ、情報交換、勉強会の場を設定している。また施設管理者・スタッフは昨年9月に大和郡山市グループホーム交流会を立ち上げ、活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の問い合わせの段階では本人の困っている内容について、本人のペースで語って頂き、不安の内容をよく理解するよう努めている。利用勧誘を前面に推し進めないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の問い合わせの段階では本人の困っている内容について、本人のペースで語って頂き、不安の内容をよく理解するよう努めている。利用勧誘を前面に推し進めないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方がグループホーム利用が適切かどうかを、冷静に判断できるような立場にたって相談者の話を傾聴している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを正確に把握し、日常生活の支援を行っていることの自覚を職員が常に持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの連絡はもとより、月に一度は健康状態と生活の様子を写真添付して送付している。関連の他のユニットの様子と比較できるようなフレンド便りも送付している。来所時には最近の写真を見ながら様子の説明をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と共に見学していただく事他、一週間程度の体験入所もしていただけるよう対応している。	近くのスーパーへの買い物や、お城の花見に行くことがある。入居前に習っていた趣味の習いごとを、入居後も通う人がいる。また、友人・知人への電話の取次ぎも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士の食事等の座席の配置や、洗濯物をたたんだり、車椅子の移動の手助け等相互に気持ちよく関わり合える様配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院者のお見舞いや特養やご自宅への転移後の面会ご葬儀への参列を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴や習慣を配慮し、思いや行動の個性を最優先している。	入居時に家庭訪問をし、生活習慣や意向の把握に努めている。日常的に食べたい物ややりたいこと、行きたいところなど聴いている。	独自のフェイスシートが用いられているが、病気や身体面のウエイトが大きいに思われる。本人の生活歴や生活習慣、趣味や生き甲斐、意向など記録するフェイスシートの工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの断片的なお話も聞き逃さず可能な限り詳しいアセスメントの作成の材料と捉える意識をもち実行している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームの連携を強め連絡を取り合っている。その方の心身の状態を常に職員が把握し適切なケアの提供の実践を行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援の評価を行い、その方の状態に適切なケアへの検討をご本人・ご家族の思いを聞いたうえで、職員の全体会議で話し合っ改善している。	カンファレンスを行って本人や家族の意向を聴き、職員で話し合っ介護計画を立てている。毎月ケア会議を行い、3ヶ月に1回プランの評価を行っている。	できれば、本人の生き甲斐や興味、趣味などを活かした介護計画も望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施期間を明示し期間終了時の見直しを行っている。気付きノート等を設置し、常に新鮮な情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の関係医院から訪問看護や訪問リハビリを受けられるように支援している。系列の施設等と合同の催しを企画し参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの申し出等により、利用者の必要性を考慮し、協力の依頼をしている。(音楽療法・大正琴演奏・フラワーアレンジメント等)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科・眼科等の受診が必要な場合は家族に連絡し希望があれば受診を行っている。歯科受診は訪問も手配できる。	24時間対応のかかりつけ医がおり、月2回往診を受けることができる。歯科の往診もある。また、本人の希望する病院への受診も可能である。受診結果は、面会時や電話で家族に伝えている。「一言通信」の健康欄にも記載し、送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	水曜日・土曜日の定期的な訪問により、介護者・看護職者の連携から双方の気づきを確認し、ケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医と家族を交えて入院先の担当医への現況や予後話し合い、早期の退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定している。ターミナル状態が近づかれた場合は関係者のカンファレンスを行い、書類を作成して取り組んでいる。往診医は24時間体制での対応をしてくれる。	24時間対応のかかりつけ医、訪問看護など、医療面での対応は整っている。重度化した場合は、「重度化対応指針」に基づいて、本人や家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や職員とよく話し合っており、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修の内容等にも含めている。対応マニュアルの所在を定位置とし、平素から熟読定期的にシミュレーションしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所の壁に災害対策の対応手順を掲示すると共に近隣への連絡の後、年2回の避難訓練を行っている。	緊急時対応のマニュアルが、事務所の壁に貼られている。年2回、防災訓練を実施し、1回は夜間想定訓練も行っている。各階に消火器を設置し、近々スプリンクラー設置の工事を行う。非常時用の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個人の個性に合わせ、共感した対応をしている。	一人ひとりの生活習慣や個性を尊重し、その人のペースに合わせて声掛けをしている。居室への入室時は、本人の了解を取るようになっている。入浴時は、同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活を楽しく感じて頂けるよう起床時の洋服の選択や食事の献立への希望・アクティビティの選択等への声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の支援を徹底している。業務の遅れは後で修正できると考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を基本にし、アドバイスや支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えた上で、食べやすさ、見ために工夫をし、入居者の好みや行事色を配慮したり、誕生日等でメリハリをつけている。一緒に調理や片付けを楽しむことも重要と認識している。	メニューはユニットごとに異なり、利用者の希望を聞くようになっている。利用者に調理法や味付けなどアドバイスをしていただき、準備や片付けも一緒に行かない、一緒に食べている。誕生日会には、本人の食べたいものを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理を行い身体状態を把握し、調理に反映している。水分摂取は時間を決めずにコマメに行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLに応じた支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握をし、失禁を減らすように誘導等の支援を行なっている。	夜間もオムツを使用せず、必要な人はリハビリパンツやパットで対応している。排泄パターンをこまめに記録し、適時にさりげなくトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立時に食物繊維の摂取を意識し、積極的に取り入れる。便秘予防を説明し、水分摂取の促進に努めている。運動等による腸の活動促進に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の入浴時間や回数に添えるように準備している。安全に楽しんで入っていただけるように同性介助・脱衣所や浴室の戸を閉めプライバシーの保護に配慮している。	午後3時半以降に、週3回入れるようにしている。同性介護により、リラックスしてゆっくり入ってもらい、コミュニケーションを楽しむよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活活動を促し、適度な運動量を確保できるように支援し、スムーズな入眠を配慮した生活リズムをつけられるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容の勉強をしている。薬剤師や家族からの説明を聞き、医師の指示通りに服薬していただけるようにしている。症状の変化にはその都度記録し、医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人との会話や生活歴、思いを汲み取り裁縫や調理、カラオケ等個々にアクティビティを選択している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・季節に応じたピクニック・食事会・音楽会やお城祭り等への参加は職員や家族と随時行なっている。	寒い時期は外出は減る傾向にあるが、天気の良い日は、近くの公園やコンビニ、お城などに散歩に出かける。月に一度は、花見や外食、音楽会など車で出かけるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を所持している方には、支払い時に職員がおてつだいし、一緒に管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分でダイヤルできる方には受話器を手渡し、可能でない方には呼び出しをして受話器を手渡して会話していただけるようにお手伝いしている。手紙は便箋や切手を準備し、投函のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭やベランダには太陽光・風・気温を感じ、季節の花や緑が見えるように環境を整えている。リビングや食堂では自分のお気に入りの座席を確保できるように配慮すると共に、他氏と自由に談話やTVを楽しめるような家具の配置に工夫している。	ユニット内はバリアフリーで、適所に手すりが設置されている。廊下や居間などに季節の花が飾られている。台所はオープンになっているため、気軽に利用者も手伝うことができる。居間には畳スペースも設けられ、寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭やベランダには太陽光・風・気温を感じ、季節の花や緑が見えるように環境を整える。リビングや食堂では自分のお気に入りの座席を確保できるように配慮すると共に、他氏と自由に談話やTVを楽しめるような家具の配置に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファ、テーブルを各所に置き、利用者には思い思いの場所で居心地よく過ごしていただいている。	居室の入り口には、名前が入った手作りののれんがかけられている。居室は利用者ごとにレイアウトされ、使い慣れたベッドや椅子、仏壇や鏡台、写真や本人の作品などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや個々の居室の表札の掲示をしている。		